

# 熊本地震 長崎みなとメディカルセンター 市民病院@ながさきDMAT 活動報告



2016.4.20

# 熊本地震の震源地

- 前震 熊本  
2016年4月14日 21時26分  
震度7・M6.5
- 本震 熊本  
2016年4月16日 1時25分  
震度6強・M7.3
- 熊本・阿蘇  
午前3時55分 M5.8
- 大分県  
午前7時11分 M5.3

## DMAT (Disaster Medical Assistance Team)

- 急性期に活動（48時間以内）
- 機動性を有する
- 専門的トレーニングを受けた救命治療を目的とする医療チーム
- 広域搬送への対応
- 自己完結性を有する

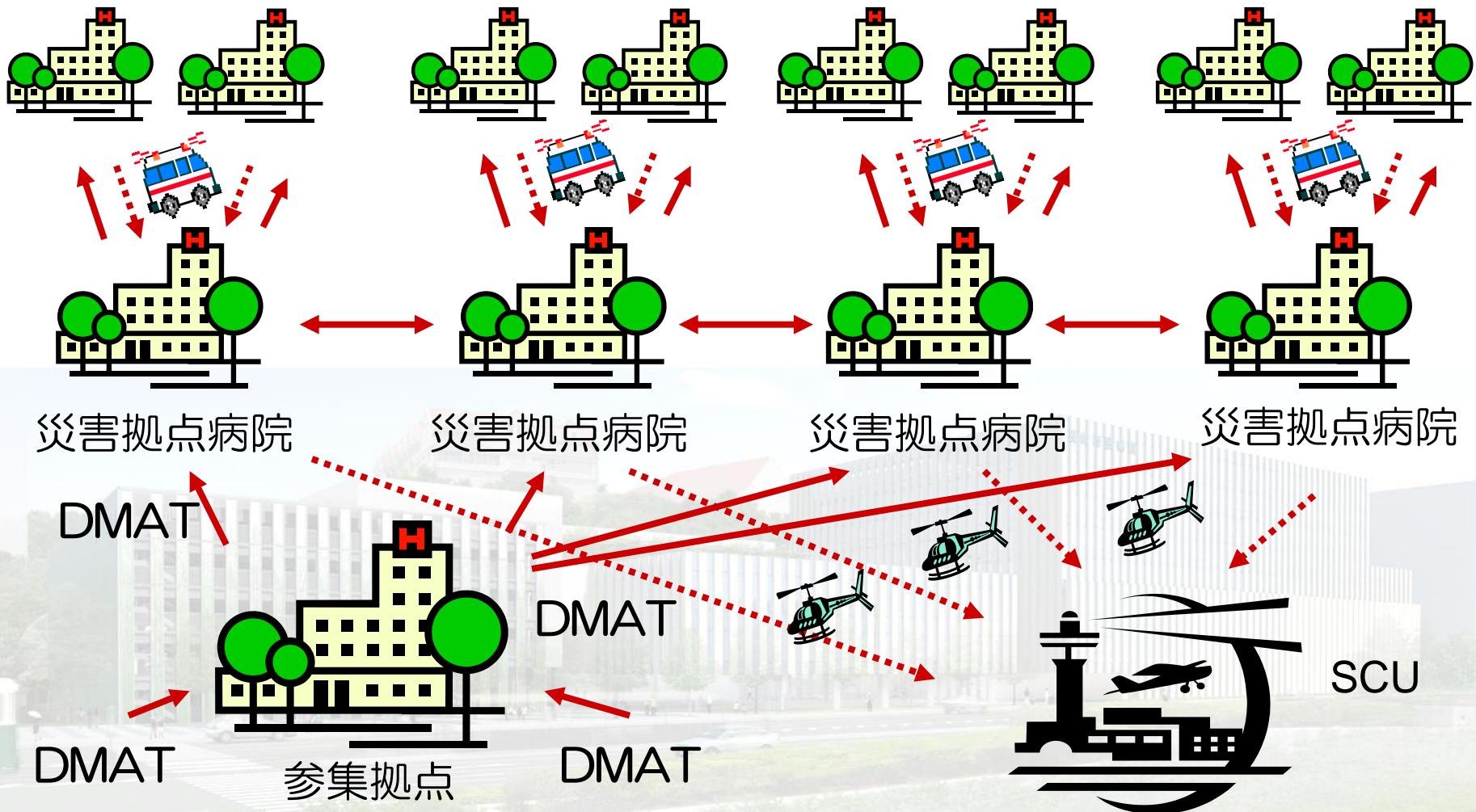




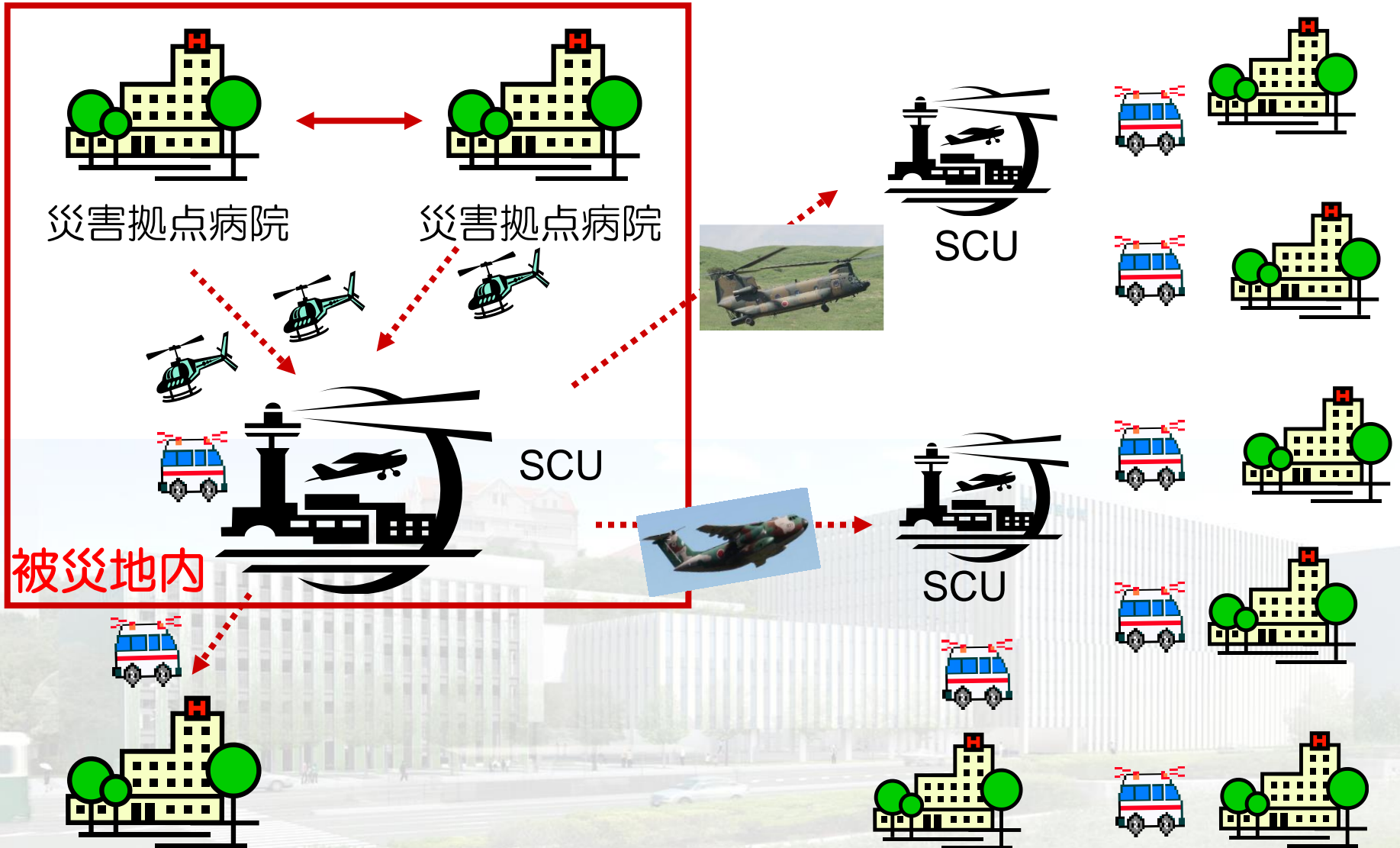
## DMATの活動概要

- 被災地域内での医療情報収集と伝達
- 被災地域内でのトリアージ、応急治療、搬送（3T）
- 被災地域内の災害拠点病院の支援・強化
- 広域医療搬送拠点（SCU）における医療支援
- 広域医療搬送における航空機内搭乗医療
- 災害現場でのメディカルコントロール
- 関係機関との連携・調整

# DMAT活動



# DMAT活動



## 熊本市内の病院機能

- 熊本市の熊本市民病院の建物が倒壊する恐れがあるため、入院患者を他の病院に搬送（入院患者約300人）
- 熊本セントラル病院（308床）もスプリンクラーの作動で院内の一部が水浸しになり、診療できない状態になっている。入院患者約200人の大半は病院の駐車場や隣接するビジネスホテルに避難しており、他病院への患者の移送を検討している。

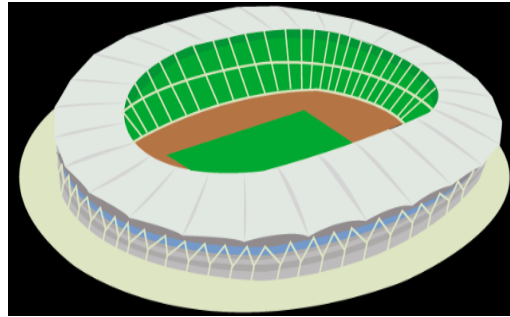
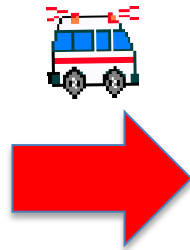
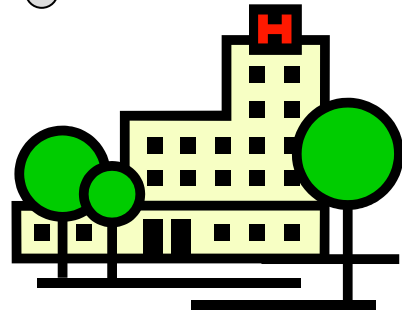


## 長崎みなとメディカルセンター市民病院@長崎DMAT ミッション

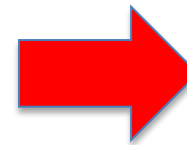
- 熊本セントラル病院の入院患者16名を宮崎空港までの搬送
- 1回の搬送に4人を4往復のミッションを受けた



# 長崎みなとメディカルセンター市民病院@長崎DMAT ミッション



1時間の飛行



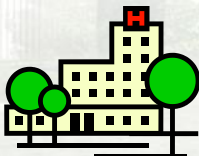
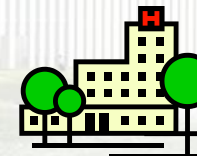
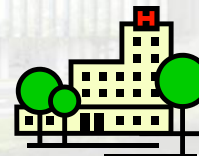
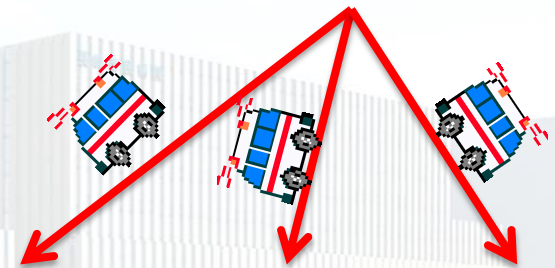
熊本セントラル病院

うまかなよかな  
スタジアム

宮崎空港



ロッカールームで  
一旦收容



宮崎市内病院



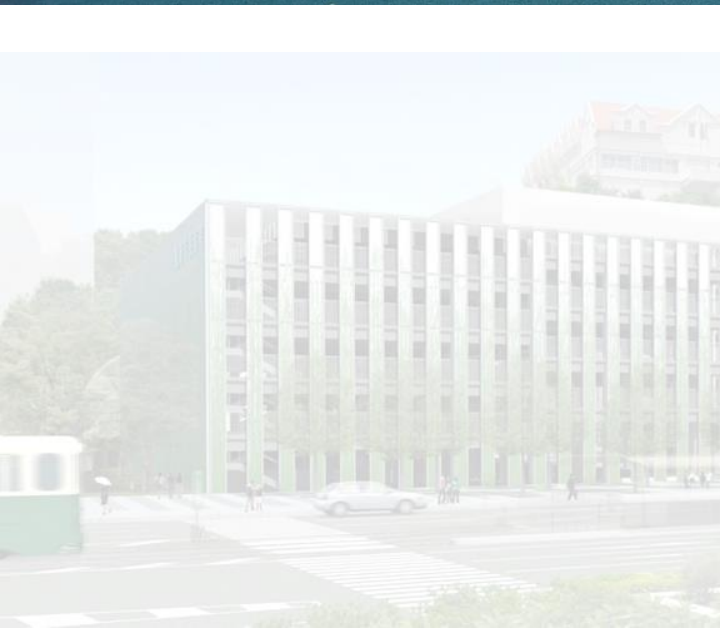


地域医療支援病院  
長崎みなとメディカルセンター

DMAT

DMAT







# 長崎みなとメディカルセンター市民病院@長崎DMAT ミッション

## 搬送患者(18:30~20:18)

- 66歳M:肺炎・てんかん
- 92歳F:敗血症
- 83歳F:総胆管結石・脳梗塞
- 83歳F:気管支喘息
- 93歳M:誤嚥性肺炎・AAA

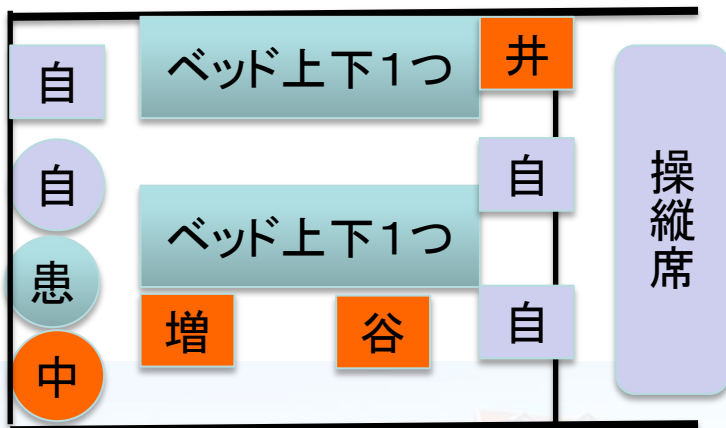
## トラブル発生

- 酸素ボンベ2本  
→本部へ要求
- モニター1
- SpO21, 血圧計1  
→モニタリングをやめ、間欠的測定へ変更
- 4人の搬送予定が5人搬送された。  
→1人を椅子に座ってもらった状態で搬送
- 天候不良  
→1度のみでの広域搬送となる



# 長崎みなとメディカルセンター市民病院@長崎DMAT ミッション

## ミッション1時間



## トラブル

- モニター1
- SpO21, 血圧計1  
→モニタリングをやめ、間欠的測定へ変更
- SpO2低下  
→1. 酸素流量調整  
2. 酸素チューブ接続外れ  
3. 気切患者の痰貯留  
→吸引
- 点滴の逆流による閉塞



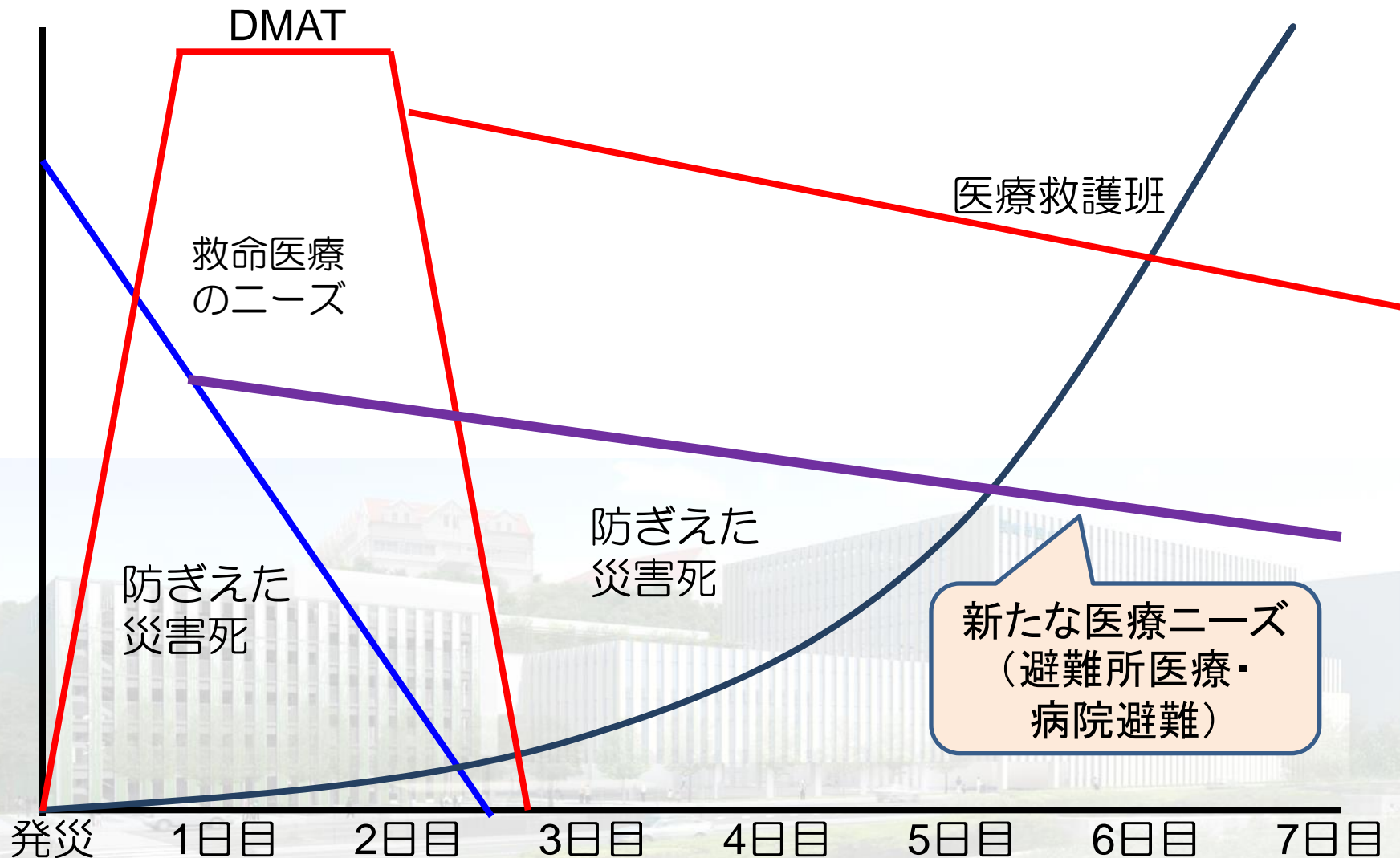




# 長崎みなとメディカルセンター市民病院@長崎DMAT ミッション(2日目)



# 東日本大震災で新たな展開



# 現時点での課題

- DMAT待機要請、出動要請時の準備、調整の  
具体的ルールの構築
- DMAT準備物品の確認
- 病院内の後方支援としての体制づくり
- 災害時の受け入れ病院としての体制づくり  
(EMIS入力の徹底)

# 最後に

- 後方支援として、病院長をはじめ多くのスタッフの支援いただいたおかげで、被災地での活動に集中することができ、任務を全うすることができました。心から感謝申し上げます。
- 犠牲になられた多くの方々のご遺族の皆様に対し、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。
- 今後、被害が拡大されないことを祈り、第3、4陣のDMAT隊の活躍に期待したいと思います。